

親子井戸掘り教室を実施しました！

NPO法人女川ネイチャーガイド協会主催、女川町共催、サッポロホールディングス（HD）と一般社団法人全国さく井協会の協賛により、平成27年8月23日に、奥清水溪流の森公園において『親子井戸掘り教室』を開催されました。子どもたちに『人の力で井戸が掘れること・水の大切さ』をみんなで学んでもらう企画です。

掘さく計画・材料の提供・施工は、さく井協会特別技術委員会が受け持ちました。



特別技術委員の島田さんの指導のもと
手掘りの打ち込み井戸を、親子みんなで掘さくしました



押しポンプを設置し、夢中で汲み上げる子供達

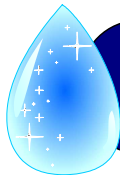


完 成

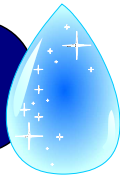


井戸に設置された記念のプレート

当日、参加者に配布した資料（抜粋版）を以下に示します。



親子井戸掘り教室



平成27年8月23日（日）

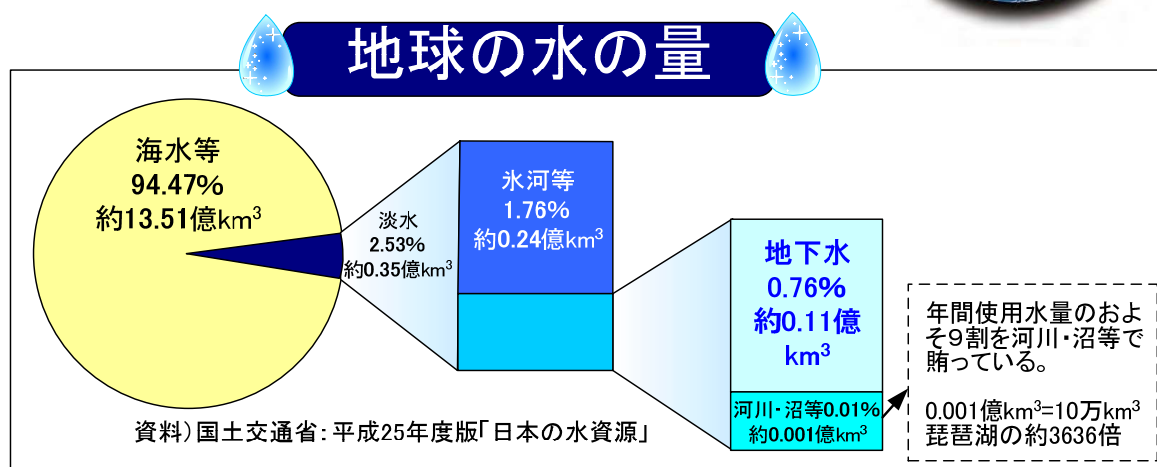


人の力で井戸が掘れることと 水の大切さをみんなで学びましょう！

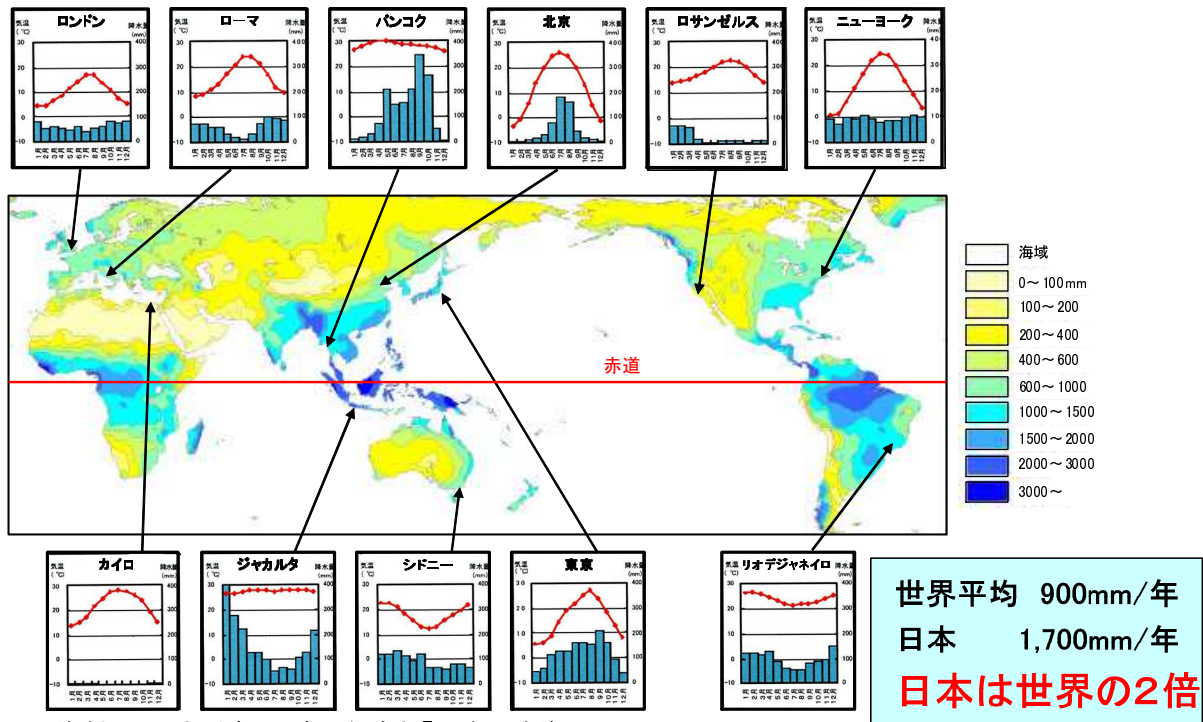
奥清水溪流の森公園

主催		NPO女川ネイチャーガイド協会
共催		女川町
協賛		サッポロホールディング株式会社
		一般社団法人 全国さく井協会

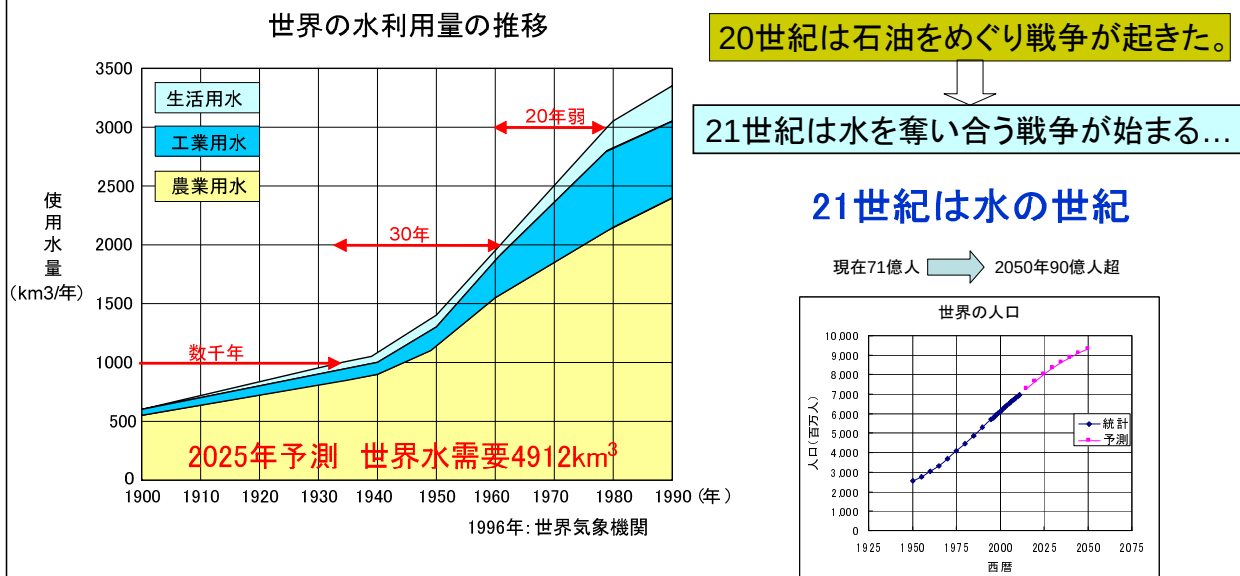
私達の地球は、『**水の惑星**』と呼ばれています。
それは、月や火星などと違って、地球にはたくさん水があるからです。
そのおかげで地球は、『**生命あふれる星**』となっています。
しかし、水はいつでも、どこでも、たくさんあるわけではありません。
世界では今、水不足となる地域が広がっています。
今日は、命と同じくらい大切な『**水**』について、一緒に考えましょう！



世界と日本の降水量



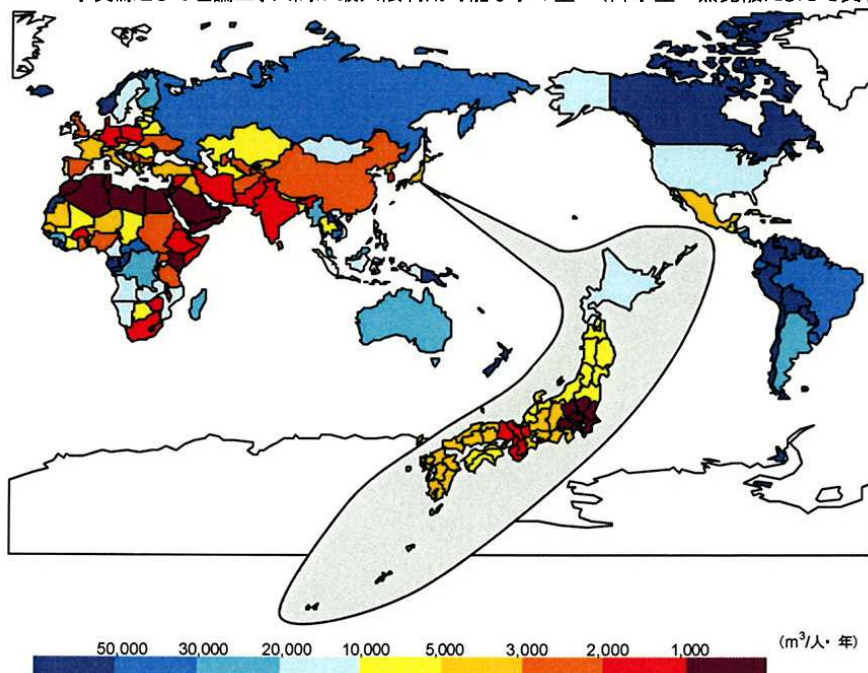
世界の水使用量



世界の水の年間使用量は1940年以降、急激に増加しています。
世界の人口も増えているので、水不足が心配な国が増えています。

世界の国別一人当り水源賦存量

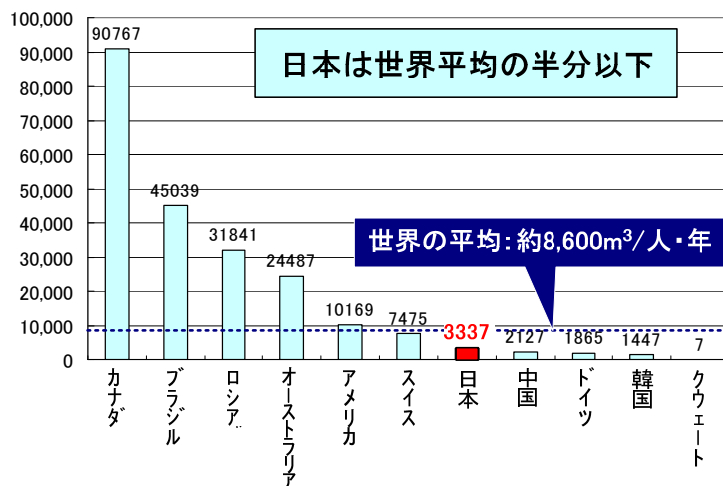
水資源として理論上、人間が最大限利用可能な水の量＝(降水量－蒸発散によって失われる量)÷人口



資料) 国土交通省: 平成25年度版「日本の水資源」

東北は全国第2位

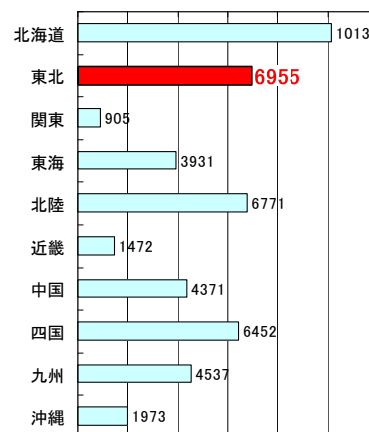
m³/人・年



日本は世界平均の半分以下

世界の平均: 約8,600m³/人・年

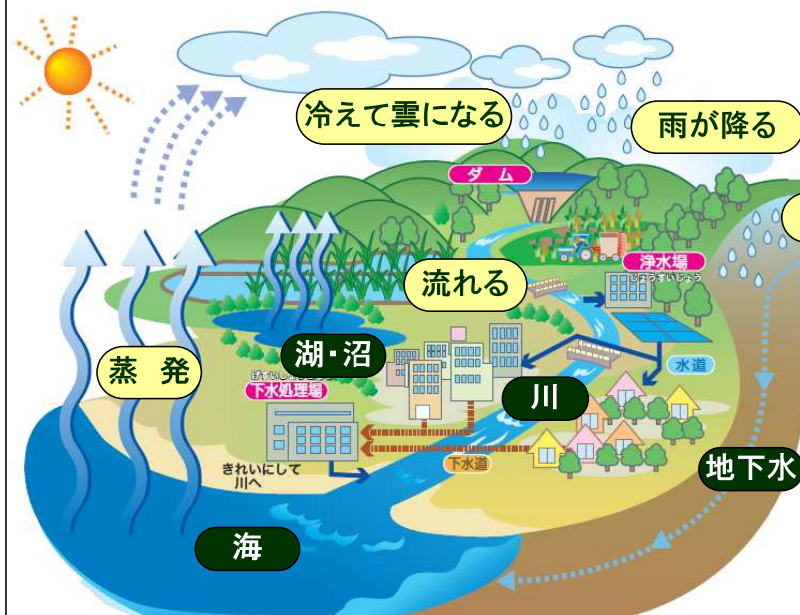
m³/人・年



東北が第2位なのは、人口密度が他の地域より小さい理由もありますが、東北には豊かな自然があるからです。

私たちが、いつまでもおいしい水を、安心して飲み続けるためには、東北の自然を大切にするとともに、水を大事に使うことを心がけましょう！

水は循環している



水は太陽のエネルギーで海や大地から蒸発して雲になります。

雲ができると、やがて雨や雪となって空から降ってきます

しみこむ

大地に降った雨や雪は、一部は蒸発し、残りは川を流れ、または地下水となり、やがて海へと流れていきます。

土からしみこんだ雨は、森林や大地にうるおいを与え、緑を育てます。

森林は一時的にためる(保水)能力を持っており、利用できる河川水・地下水量を増やすことができます。

資料)一般社団法人 全国上下水道コンサルタント協会 北海道支部:『大切な水』

私たちの暮らしは『水』で支えられています。

『水』は循環型の資源であり、私たち人類の共有の財産です。

地下水は、地表からしみこむ供給量以内で利用すれば、持続可能な資源として安定的に利用することができます。

災害に強い井戸

「東日本大震災による井戸被害調査」から、井戸は地震に強い(機能を失ったのは2%)ことが再確認されました。また、水道施設が寸断された時は、井戸に給水を求める被災者の行列ができ、水確保に活躍しました。したがって、少なくとも避難所となる拠点に井戸を設置することは、防災対策としてきわめて有効です。

